



常設展示室

港川人3号

港川人は、保存のよい1~4号人骨を中心とした更新世の人類化石です。1970年に那覇市の実業家、大山盛保氏(故人)によって発見され、研究のために東京大学で保管されていました。そのうち3号と4号が今年11月、沖縄に戻ってきます。3号は、頭の骨こそないものの、体の骨がもっともよく残っている人骨で、30歳くらいの女性です。人骨化石を詳しく調べた結果、港川人1号と3号の足の骨には、成長期に栄養障害が病気によって成長がとまった時期があることがわかりました。港川人は、自然の恵みに左右される不安定な狩猟採集生活を生きぬいたと考えられています。

沖縄県立博物館新館開館記念展にて港川人の実物が展示されます。

※ 沖縄県立博物館新館開館記念展

「人類の旅 ー港川人の来た道ー」
2007年11月1日~2008年1月20日
沖縄県立博物館企画展示室(3階)

人類化石の島、沖縄

第6回

島それぞれに多様な文化、歴史、自然、
沖縄を特徴づけるものはたくさんあります。
そのなかに、化石もあることを知っていますか？
沖縄は、東アジア有数の人類化石の産地なのです。
化石の宝庫、沖縄から見つかった貴重な人類化石、
それが港川人です。

美ら島
まるごと
ミュージアム

太古の沖縄と人々の暮らし

沖縄本島南部の八重瀬町港川フィッシュヤード遺跡から見つかった私たちの遠い祖先、港川人。身長は百五センチと小柄ながら、一万八千年前の沖縄で野山を駆けめぐり、狩猟採集生活を送っていました。港川人と一緒に見つかったシカやヤンバルクイナの化石は、当時、沖縄本島南部にもヤンバルのような豊かな森林が広がっていたことを物語っています。

沖縄に最初にやってきた人々

アフリカで誕生した人類が、はるばる沖縄までやってきたのは、三万~四万年前のこと。日本最古の人類化石である三万二千年前の那覇市山下町第一洞穴人や二万六千年前の宮古島ビンザブ人、そして港川人……。まだ謎に包まれた先人たちの生活や、彼らと現代に生きる私たちのつながりを明らかにするための研究が、今も続けられています。



2007年11月1日
那覇新都心にOPEN!!
沖縄県立博物館・美術館

<http://www-edu.pref.okinawa.jp/kensetsu/>